

2015年度上半期 防災特集

今年度の上半期に高知大学医学部附属病院で開催した、防災に関する講習や訓練についてご紹介します。この他にも、本院では防災に関する様々な講習等を行っています。

第4回 院内災害対応訓練講習会(Disaster ABCコース)の開催

高知大学医学部災害・救急医療学講座 特任教授 長野 修

第4回院内災害対応訓練講習会(Disaster ABCコース)が、5月24日(日)、医学部実習棟3階で開催されました(主催:災害・救急医療学講座)。災害医療教育プログラムは多数存在しますが、このDisaster ABCコースは、災害時に多数の傷病者の受け入れを担う医療機関(救護病院や災害拠点病院)の全職員を対象とした、初心者向けのコースです。この中で、災害対策本部やトリアージ、治療・搬送などのスキルステーションを全員が一通り経験し、災害医療に関する全般的な理解を深めることができました。

今回の受講者は、歯科医師1名、初期研修医21名(歯科5名)、看護師19名(学外者9名)の計41名で、卒後臨床研修センターの協力で1年目の初期研修医が全員参加できました。32名のボランティア(医学科学生13名、看護学科学学生19名)が模擬患者役を担当し、インストラクターは外部講師5名と、本学DMAT隊員3名が務めました。さらに、見学者41名(県内14施設)と運営スタッフ8名を加えて、全参加者は130名でした。

近年、「災害医療はすべての医療者が学ぶべきものである」と言われるようになってきました。2011年11月にウルグアイの首都モンテビデオで開催された世界医師会において、「災害対策と医療対応に関する宣言(モンテビデオ宣言)」が採択されました。この宣言では、①世界中のいかなる場所でも、常に自然災害に遭遇する可能性がある、②医師は多数の死傷者の確認、診断、治療といった作業への一層の熟練が求められる、③そのため、全ての医師は専門領域を超えて災害に備えるトレーニングプログラムを受けなければならない、とし、「災害対応力」という2つ目の専門性を持つことの必要性が強調されました。

また、高知大学医学部キャンパスは指定避難所ではありませんが、今回新たな試みとして、医学部学生の災害医療研究会メンバーによる「避難所運営ゲーム(HUG:ハグ)」を同時開催しました。これには、医師1名、看護師20名、薬剤師1名、事務職員3名の計25名(全員学外者)が参加し、とても好評でした。今後の継続が期待されます。



情報伝達訓練を実施しました

会計課

平成27年5月27日(水)、高知大学医学部では情報伝達訓練を実施しました。今回の訓練は、災害対策本部内実務を担当する事務職員を対象に、情報の整理にポイントを置き実施しました。

まず、オリエンテーションと情報伝達に関する座学の後、全員で時系列による記録(クロノロジー)の作成演習を行いました。

次いで、衛星携帯電話やトランシーバなどの、災害時用通信機器の取り扱いや通信方法を学んだ後、緊急参集人員管理の演習として、訓練コントローラー役に指名された「総務班」の班員が参加者を5班に振り分けました。更に各班で、班長、通信担当、記録担当等の業務分担を決定する「チームビルディング」の後、コントローラーが提供する模擬情報からクロノロジーを作成し、状況を把握する訓練を行いました。

参加者は、情報収集時に「5W1H(いつ:When、どこで:Where、だれが:Who、なにを:What、なぜ:Why、どのように:How)」の要点を押さえること、記録方法・通信方法に応じた適切なツールの選択、誰もが状況を把握できる記録作成等の重要性を認識することができました。

